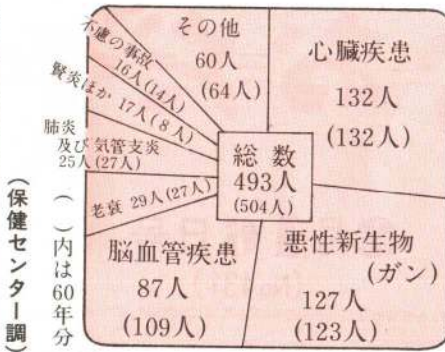


61年中病類別死亡状況調べ

死因トップは心臓疾患

六十一年の市の病類別死亡状況が先ごろまとまりました。それによると心臓疾患による死亡が昨年に続きトップとなっており、ガン、脳血管疾患を合わせた、いわゆる成人病による死亡者は、全体の七割を占めています。成人病を防ぐためには年一回の定期検診を必ず受けるようにしましょう。

◆病類別死者数



高年齢者に多い
心臓疾患

六十一年中に病気で亡くなった方は四百九十三人でした。この中で心臓疾患による死亡者は、全体の二八%を占め、男性が六十九人、女性が六十三人となっています。年代別では、男性が五十歳、女性が七十歳から死亡者が増え、特に八十歳以上の女性が三十三人も亡くなっています。

男性に多い
胃ガン・肺ガン

ガンによる死亡者も全体の二六

%を占め、男性が九十人、女性三十七人となっています。種類別では胃ガンが三十八人、トップ、次いで肺ガン、大腸ガンとなっており、胃ガンと肺ガンは男性に多く見られます。また、子宮ガン四人、乳ガンも三人となっています。

年一回は
定期検診を

市では、市民の皆さんの健康を守るため、およそ六千万円の費用で胃検診や子宮ガン検診、一般健康診査などを実施しています。六十一年中に検診を受けた方は胃検診が三千五百七人、子宮ガンが三千八百九十七人、結核が一万九百九十九人、一般健康診査が一万三千八百二十八人でしたが、まだ受診者が少なく、多くの市民の受診をおすすめします。この検診後さら

に精密検査をした方の中から早期ガンやその他の病気が発見されたケースも少なくありません。現在の医学進歩により早期ガンは全治します。年一回は必ず検診を受けて健康をチェックしましょう。

◆健康についてのご相談は
☎42-9055保健センターへ

鉱山の維持存続と雇用確保を決議

市議会臨時会

市議会臨時会が二月四日開かれ、「鉱山の維持存続と雇用確保に関する決議」と鉱山不況緊急対策特別委員会の設置が決められました。

長びく不況は最近とくに厳しくなり、地元鉱山の閉山をはじめ、事業所の縮小、休業、撤退、人員合理化による失業など、関連企業をも巻き込み、地域経済にも大きな打撃を与え、極めて深刻なものとなっています。市議会では、この難局を打開するために次の事項について国や県などに緊急に措置するよう要望することを確認しました。

- ▽鉱山維持存続のため
- 金属価格差補給金の緊急助成
- 政策としての行政指導
- 企業の社会的責任としての自助努力
- ▽代替産業の誘導と雇用創出対策
- ▽地域雇用開発等促進法(仮称)の地域指定と具体化

選管からのお知らせ

市長及び市議会議員選挙 立候補予定者に対する説明会

4月26日に執行される大館市長選挙及び市議会議員一般選挙に立候補を予定されている方を対象に説明会を開催します。なお、出席される方は、候補者1人につき2人以内に限定させていただきます。

とき・2月26日(木)午後1時
ところ・中央公民館第1研修室
持参・筆記用具、地方選挙早わかり(当日会場でも頒布します。1部1200円)

後援団体に関する 寄付等の禁止

- ◇候補者などが自己の後援団体に対して寄付すること。
 - ◇後援団体がその選挙区内にある者に対して寄付すること。
 - ◇何人も、後援団体の集会や見学、旅行などにおける供応接待、金銭記念品などを受けること。
- 以上のことは、次の期間禁止されます。
- 県の選挙……1月12日～4月12日
市の選挙……1月26日～4月26日

問い合わせ
選挙管理委員会
内線297



市長の 対話ノート



No.147

売り上げ税

今、国会の内外で売り上げ税論議が活発に行われています。

所得税、法人税、地方税つまり直接税を減税し、それに必要な財源を間接税に求め、売り上げ税を新設するというものです。私たち自治体からすれば、地方税という直接面と所得税、法人税が地方交付税を通してという間接面が深いかわりがありますから他人事ではありません。

更にこれほどの深刻な時に、しかも内需の拡大が国の内外から求められている時に、それに水を差すような新税はどうしても納得ができません。

それは「直接税を減税し、間接税でまらう」といいますから売り上げ税が物価に転嫁されることは間違いありません。ただ、こんな不況時に物価に転嫁すれば、売り上げが落ち込み、とても商売にならないので、その分はかかえ込まなければならぬ面も出てきます。

消費の質に多少違いがありましようが、金持ちも貧乏していても消費量には変化はありません。従って税金は同額に近くなる(逆進性)という問題も出てきます。

他人事ではありませんし、国会で決める事という見通すことも出来ません。反対という人、今は時期が悪いという人が多い中での実施は許すわけにはまいりません。

伊山健治郎